No. 4

ベトナム社会主義共和国
重症急性呼吸器症候群（SARS）集団発生に対する
国際緊急援助隊専門家チーム報告書

平成１５年５月

JICA LIBRARY
1172069[5]

国際協力事業団
国際緊急援助隊事務局

緊災
JR
03 - 02

ベトナム社会主義共和国
重症急性呼吸器症候群（SARS）集団発生に対する
国際緊急援助隊専門家チーム報告書

平成１５年５月

国際協力事業団
国際緊急援助隊事務局

1172069[5]

目　　次

序　文
写　真

第一章　活動概要 1
　１－１　災害概要 1
　１－２　ベトナム政府の対応 1
　１－３　派遣目的 2
　１－４　国際緊急援助隊専門家チームメンバー 2
　１－５　活動内容 3
　１－６　活動成果 3

第二章　第一陣活動 5
　２－１　情報収集分析 5
　２－２　チーム活動方針 12
　２－３　助言・指導 12
　２－４　携行医療資機材供与 15
　２－５　第二陣の要請 18

第三章　第二陣活動 19
　３－１　助言・指導 19
　３－２　携行医療資機材供与 23
　３－３　チーム撤退後の協力 23

第四章　チームの活動に対する考察／提言 25
　４－１　チームの活動に対する考察 25
　４－２　提言 28

添付資料 31

序文

ベトナムでは、2003 年 2 月下旬に香港からハノイ入りした米国系アジア人が発端となり、3 月上旬にかけて病院スタッフを中心に重症急性呼吸器症候群（SARS）の集団感染が発生しました。この状況に対して、わが国はベトナム政府からの要請を受けて国際緊急援助隊専門家チーム第一陣を同年 3 月 16 日から 3 月 25 日まで、さらに第二陣を 3 月 26 日から 4 月 1 日まで派遣しました。

新しい感染症が航空機を介して世界中に拡散していくという、あたかも SF 小説のような現象が現実に発生し、今般の SARS 感染の拡大は一国だけではなく、地域及び世界中の大きな不安と脅威になっています。

ベトナムで報告されていた SARS 感染者は、3 月 15 日時点では世界で最も多く、国内における感染の拡大が心配されましたが、3 月 16 日から派遣された国際緊急援助隊専門家チームは WHO との連携のもと感染防御に係る専門的な助言及び感染防御資機材の供与などにより、その後ほとんど感染者は増えることなく、世界中で SARS が猛威を振るうなか、ベトナムにおいては SARS の封じ込めは成功したといわれています。

国際協力事業団としては今後とも技術協力プロジェクト（バックマイ病院）を通じてベトナムの感染防御体制の強化を支援する方針です。

この報告書で取りまとめられている専門家チームの成果が多くの人々に理解され、今後、一層の感染症対策分野での国際貢献につながることを期待しています。

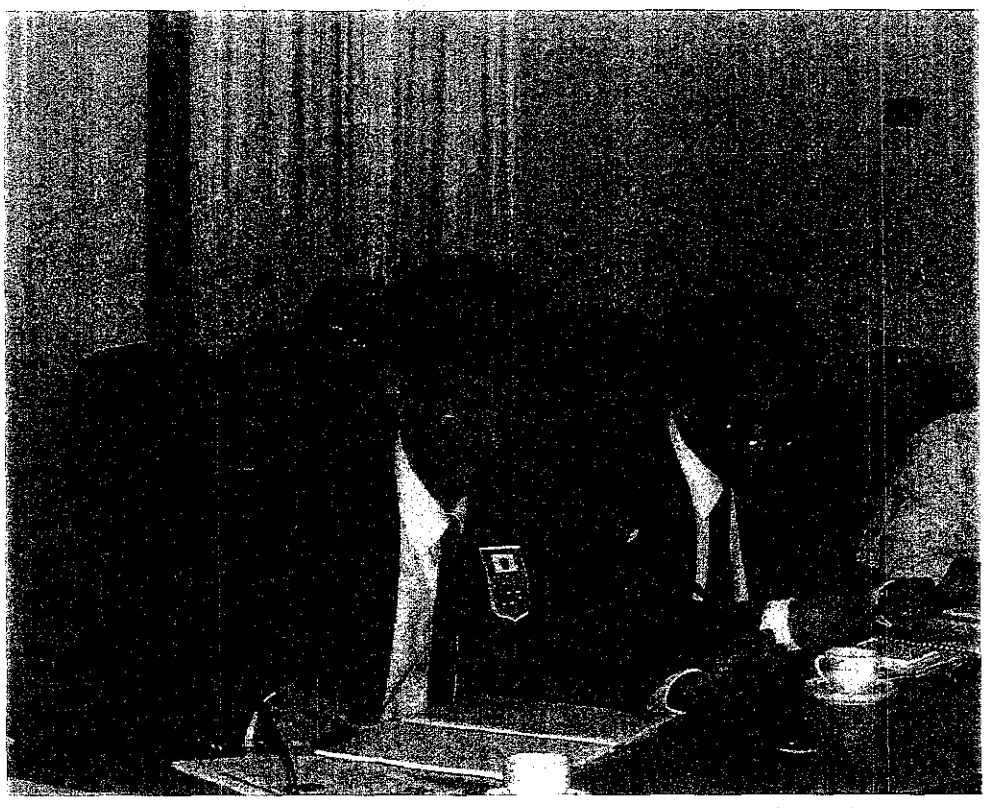
終わりに、この度の国際緊急援助隊専門家チームの活動にご協力、ご支援いただいた関係者の皆様に対し心から感謝と敬意を表します。

平成 15 年 4 月

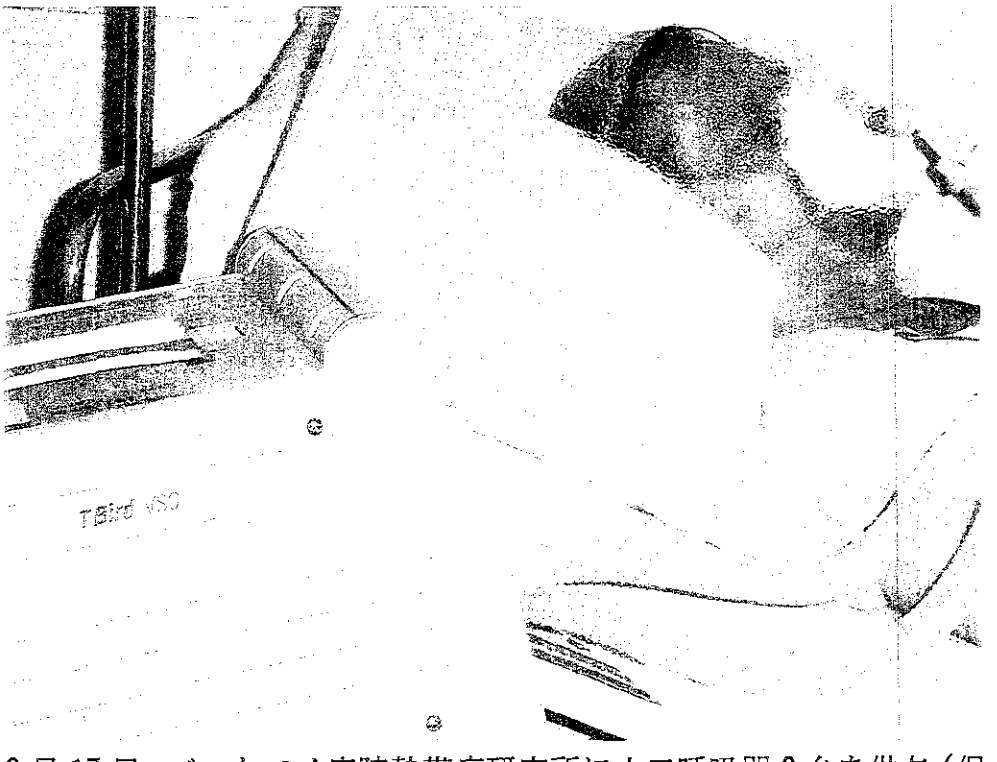
国際協力事業団
理事　松岡和久

3月17日、保健省・WHO・日本合同調整会議。
（左：ハ保健省国際協力局次長、左2：ブルドン WHO ベトナム代表、右：プラント WHO 調整官）

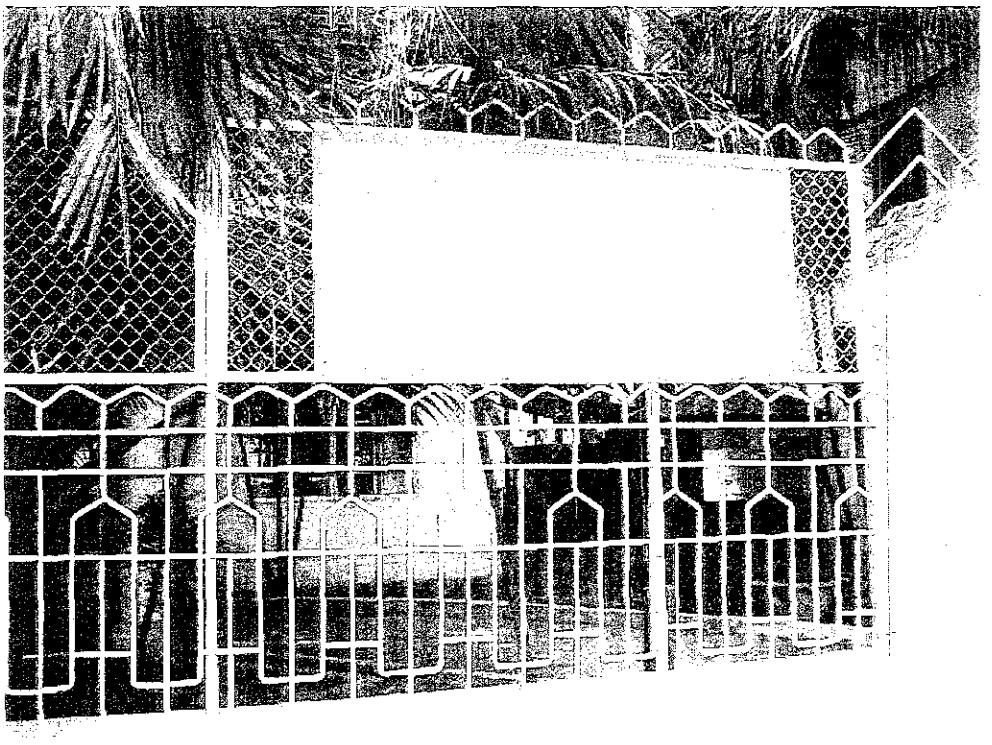
3月17日、保健省・WHO・日本合同調整会議。
（左から：北野日本大使館公使、川名団長、照屋団員）



3月17日、保健省・WHO・日本合同会議で発言する川名団長。



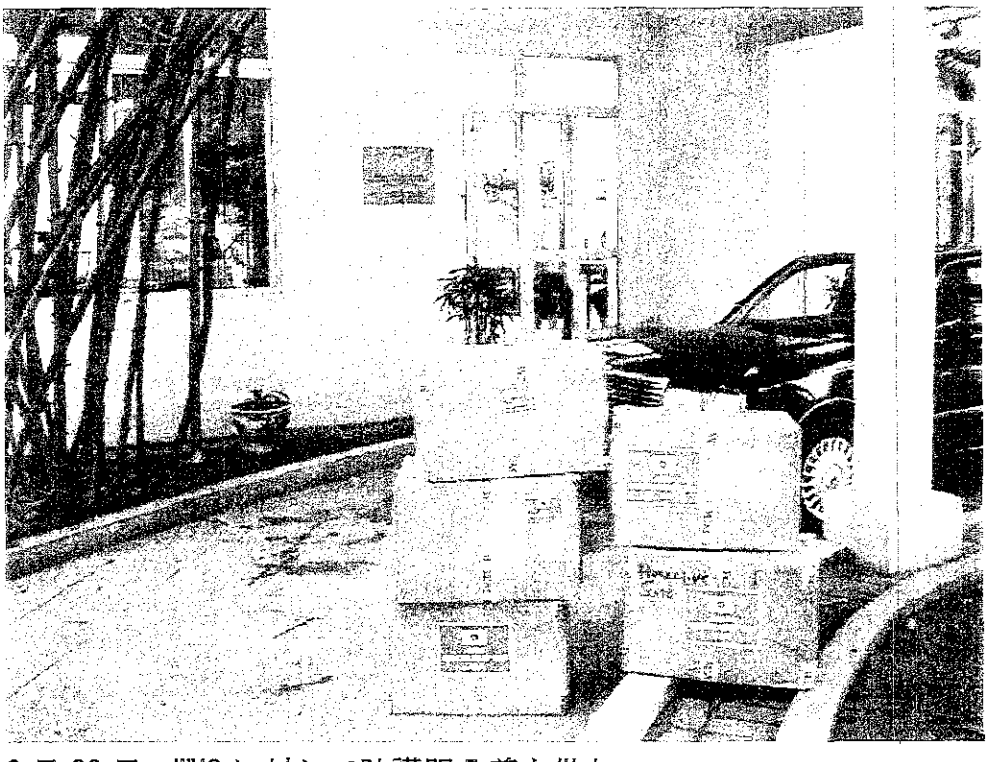
3月17日、バックマイ病院熱帯病研究所に人工呼吸器2台を供与（保健省提供写真）。



3 月 19 日、WHO ベトナム事務所。

3 月 19 日、保健省・WHO・日本合同調整会議
（左から：プラント WHO 調整官、北野日本大使館公使、川名団長、照屋団員、山下団員）

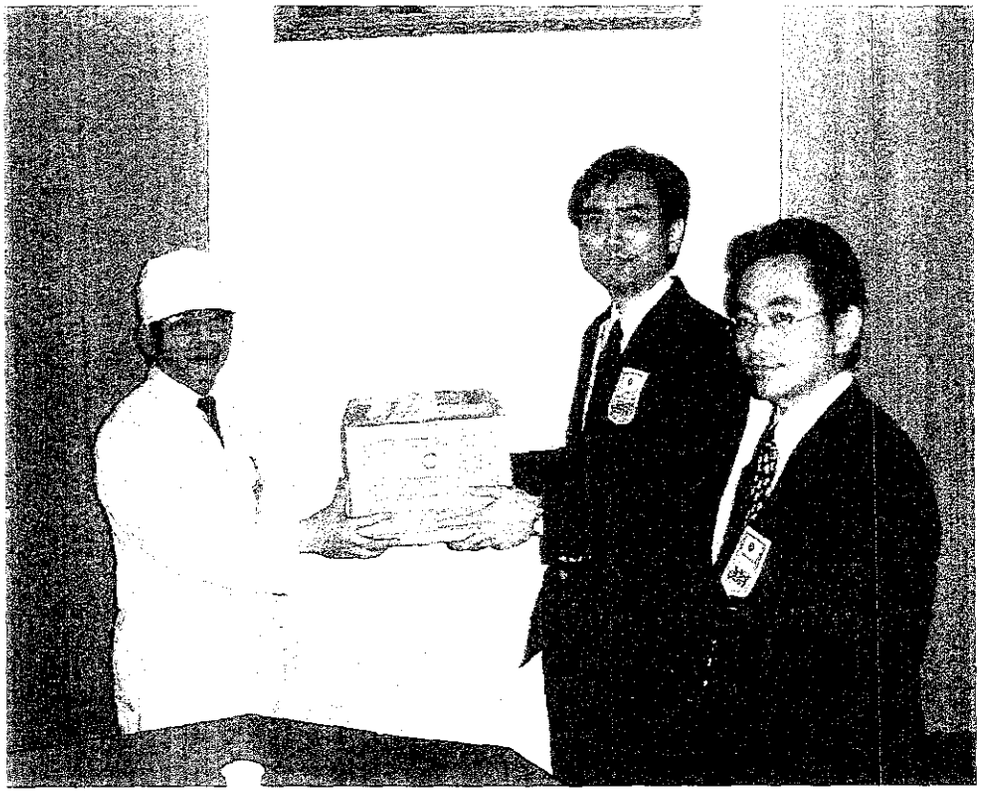
3 月 19 日、ハノイ市保健局に対して防護服 7 着を供与。



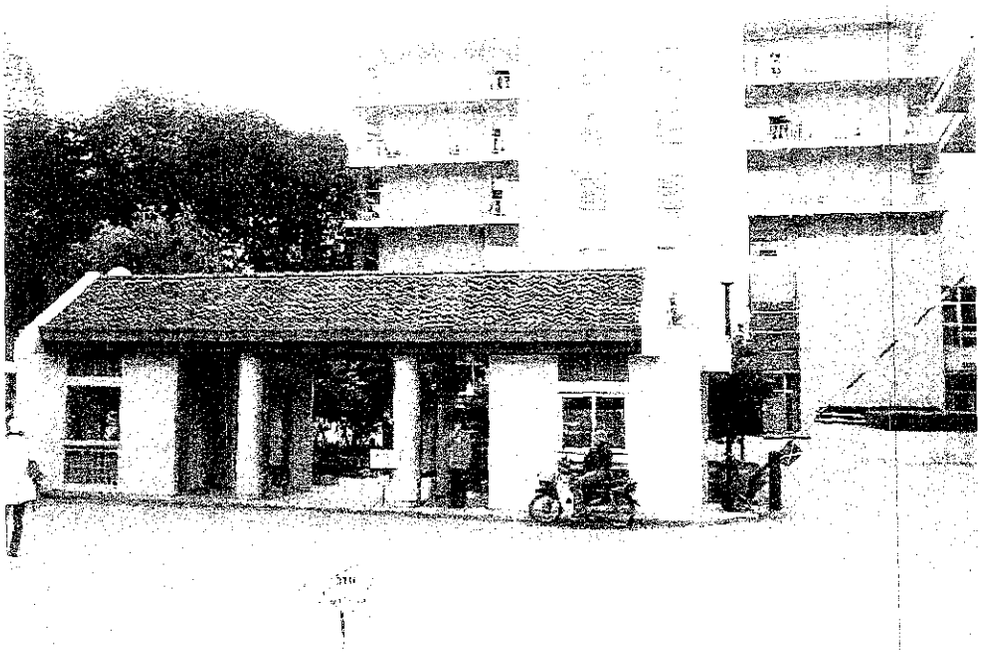
3 月 20 日、WHO に対して防護服 5 着を供与。

3 月 21 日、バックマイ病院関係者から情報収集。

3 月 21 日、バックマイ病院関係者から情報収集
（メモを取る川名団長と照屋団員）



3月21日、バックマイ病院に感染防御資機材を供与。
（左から：クイ院長、川名団長、照屋団員）



3 月 22 日、日本の無償資金協力で建てられたバックマイ病院 Technical 棟・Mechanical 棟を訪問。

3 月 22 日、バックマイ病院 Technical 棟・Mechanical 棟の内部の様子。

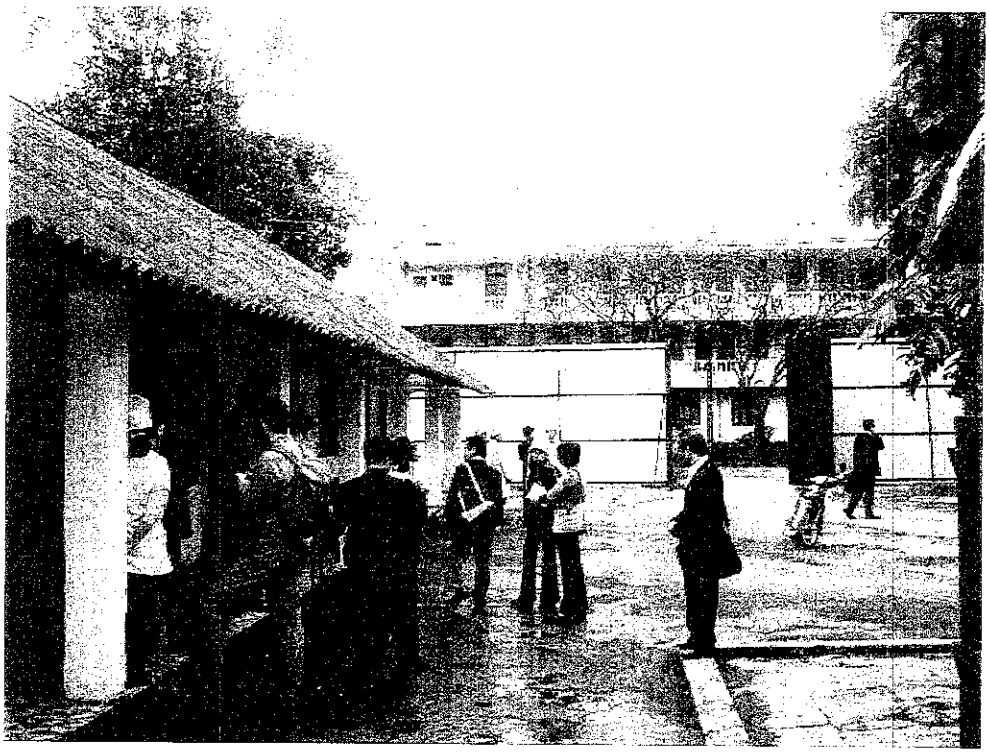
3 月 22 日、SARS 患者の治療方針について意見交換・助言する。

3 月 22 日、SARS 患者の胸部 X 線写真の説明を受ける。

3 月 22 日、SARS 重症患者の胸部 X 線像。

3 月 21 日、SARS 重症患者の胸部 X 線像。

3 月 24 日、保健省副大臣から謝辞を受ける。



3月24日、バックタンロン病院の視察を行う。

3月24日、ザーラン病院の視察を行い、関係者から情報収集する。
（左１：通訳アイン JICA 事務所員、左２：照屋団員）

3月24日、ザーラン病院の視察を行い、関係者から情報収集する。（左から：川名団長、マロニーWHO コンサルタント、チアエロ WHO コンサルタント）

3月27日、バックマイ病院クイ院長（手前）より情報収集を行う第二陣。（左から：林 JICA 事務所員、通訳アイン JICA 事務所員、小原団員、三井団長）

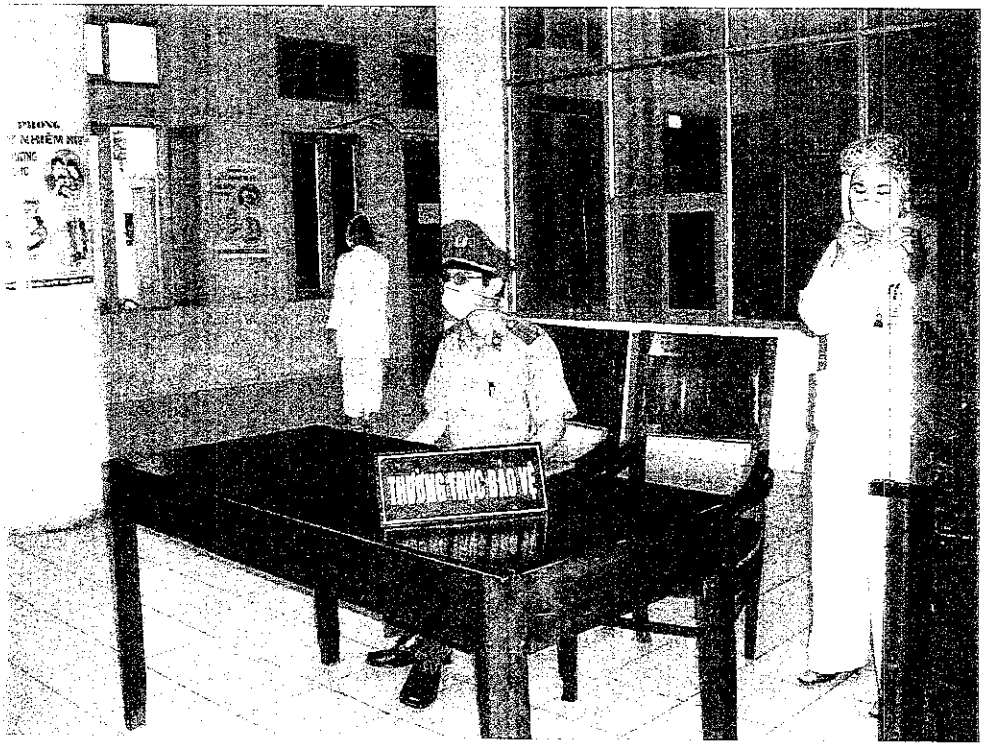
3 月 31 日、感染防御ワークショップで発表する小原団員。

3 月 31 日、感染防御ワークショップには保健省及び SARS 関連病院の関係者が数多く集まった。

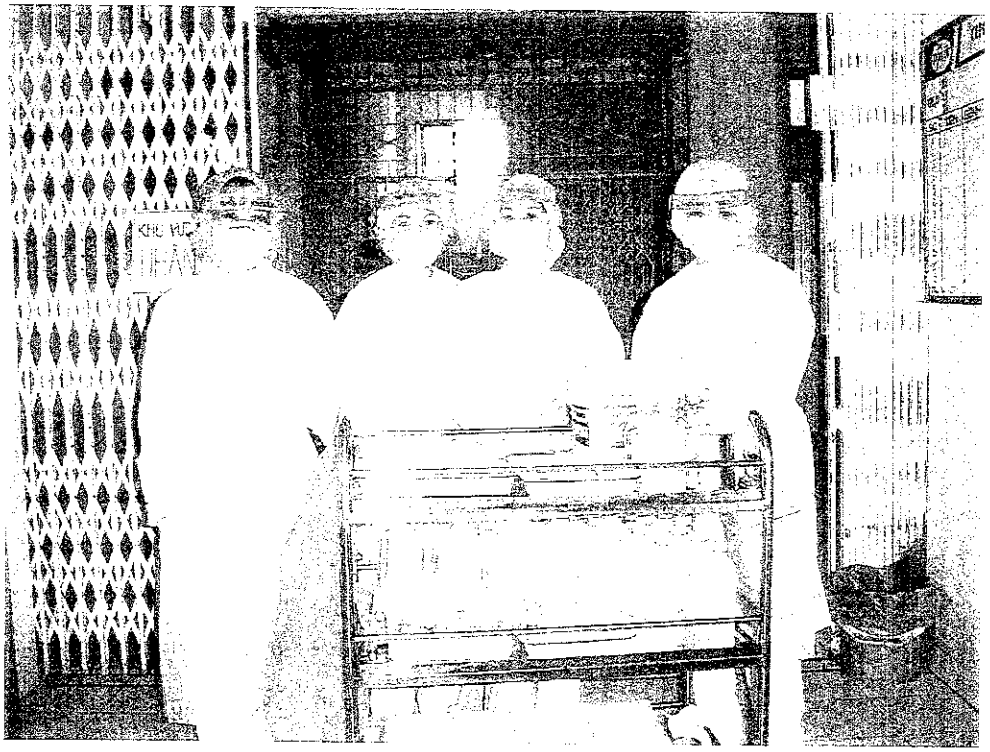
3 月 31 日、感染防御ワークショップには、国際機関からも関係者が参加。(左から：三井団長、トムソン MSF 医師、バウシ WHO コンサルタント、通訳ハ氏)

3 月 31 日、感染防御ワークショップで発言する山下団員。
(右：バウシ WHO コンサルタント)

SARS 患者を隔離している熱帯病研究所の玄関（保健省提供写真）。



熱帯病研究所の玄関で出入り者をチェックする（保健省提供写真）。



熱帯病研究所のスタッフ（保健省提供写真）。

熱帯病研究所のスタッフ（保健省提供写真）。